

# 書 籍 館

## • CONTENTS •

- 書物との出会い、それは人との巡り会い  
法学部教授 西村安博先生 ..... ②
- 図書館講習会のお知らせ ..... ④
- My DOORS ..... ⑤
- DOORSサプリ  
「図書館の裏方 ～目録(catalog)整理～」 ..... ⑥
- 図書館は宝の山 ..... ⑦
- INTERVIEW3  
法学部聴講生 笹田博さん ..... ⑧
- 展示紹介 ..... ⑨
- 所蔵資料紹介  
ガゼット・デ・ボザール誌(Gazette des beaux-arts)について  
文学部准教授 清瀬みさを先生 ..... ⑩



【新編江戸時代漫筆 上下】  
石井良助 著  
(朝日新聞社,1979.2-1979.3)

BOOKS+ 大今図 3階北書庫 210.5||I4||1~2  
BOOKS+ 大田図 書庫1階 210.5||I4||1~2

【古典曼茶羅 一汝自身を知れ-】  
高橋正治 著  
(教育出版センター,1994.3)

BOOKS+ 大今図 B2階書庫 910.4||T578

【日本法制史概説】  
石井良助 著  
(創文社,1960.6)

BOOKS+ 大今図 3階北書庫 322.1||I555-1B  
BOOKS+ 大田図 書庫1階 322.1||I555-1B

【歴史の意味】  
堀米庸三 著  
(中央公論社,1970)

BOOKS+ 大今図 3階北書庫 204||H5  
BOOKS+ 大田図 書庫1階 204||H5

【定本 柳田國男集 別巻第三】  
柳田國男 著  
(筑摩書房,1962-1971)

BOOKS+ 大今図 開架 380.8||Y||S:3

# 書物との出会い、 それは人との巡り会い



法学部教授 **西村 安博 先生**

どのような時代であろうとも、学生時代は将来の自分の精神的基盤を築くための大切な時期であると思います。自分とは一体何なのか、という人生における最大の命題に対して果敢に立ち向かっていく時期であるともいえるでしょう。そんな中で、未知の世界へ向けて考える勇気を与えてくれるものが、他でもない書物であります。

寄稿の機会を与えられた私は、恥を忍ぶずの気持ちで初めに立ち返ってみることにして、通り過ぎて行った学生時代の思い出を中心に振り返りながら、私と書物との関わり方についての反省記を書いてみることにいたします。

## 初々しい新入生時代

現行の制度とは異なって、私が大学に入学した頃にはまだ教養課程なるものが存在していました。まず教養教育が1年半、その後に専門教育が2年半というカリキュラムでしたから、こんなはずではなかったのに、まるで大海原に放り出された恰好で困惑しつつも、外国語2力国語を含む一般教養科目を毎日受講していました。単位取得の可能性の程度はさしおいて、私は受講者が少なそうな講義を取って選んでいました。そんな中で、クラスの友人と連れ立って受講した「倫理学A」では、H教授が難解な「臨濟録」をテキストに、日本人の精神世界の源流につい

て自問自答されるかのように静かに解説され、さらにそれは普化宗の問題にまで及び、時にはテープに見事に録音された虚無僧の虚托の音を静かに聴き入ることになりました。これが本当に大学の講義なのかと衝撃を受けるのと同時に、想い出深い講義の一つとなりました。

その一方で、私は安易な気持ちで、T助教授(当時、以下同)の「西洋文学概説(仏)」を受講していました。Martin du Gard(1881~1958)の長編小説「チボ一家の人々」に関する詳しい解説がなされる講義でした。素人として単なる青春物語の一つだと大いに誤解していた私は、淡々とレポートを書き上げました。ところが、T助教授は最終回の講義のコメントの中で、20世紀初頭の暗い世相、信仰の違いから生じる人間観の相剋等々に関する深い洞察力が必要であることを述べられた時、私は愕然としました。単なる「読書感想文」では失格だということ、そしてまた、学問の厳しさを強く思い知らされたわけです。

次第に背伸びをするようになった私は、分不相応にも「西洋と日本」・「日本の近代」などのテーマに関心を抱くようになり、当時、比較文化という視点を新たに示されていた平川祐弘教授の著作に幸運にも触れる機会を得ました(例えば「西欧の衝撃と日本」等の書物として刊行)。「恋愛」(love)という言葉は日本の前近代社会には存在しなかった(「西洋文明の衝撃と日本」)、などの指摘には、大いなる刺激を受けた記憶があります。

『臨濟録』  
臨濟 著 慧然 編  
入矢義高 訳注  
(岩波書店, 1989.1)  
BOOKS 大今図/大田図 文庫・新書 I||B||310-1

『忘れられた日本人』  
宮本常一 著  
(岩波書店, 1984.5)  
BOOKS 大今図/大田図 文庫・新書 I||B||164-1

『家郷の訓』  
宮本常一 著  
(岩波書店, 1984.7)  
BOOKS 大今図/大田図 文庫・新書 I||B||164-2

『古典学入門』  
池田亀鑑 著  
(岩波書店, 1991.5)  
BOOKS 大今図/大田図 文庫・新書 I||B||184-1

『チボ一家の人々 1~13』  
ロン・エ・マルタン・デュ・ガル 著  
山内義雄 訳  
(白水社, 1984.3)  
BOOKS 大今図 開架 953||M561-1F||1~13  
BOOKS 大田図 書庫1階 953||M561-1F||1~13



『西欧の衝撃と日本』  
平川祐弘 著  
(講談社, 1985.10)  
BOOKS 大今図 文庫・新書 K||||704  
BOOKS 大田図 書庫1階 K||||704



『西洋文明の衝撃と日本』  
平川祐弘 著  
(日本放送出版協会, 1988)  
BOOKS 大今図 開架 210.6||H9586



『野田泉光院 旅人たちの歴史1』  
宮本常一 著  
(宋栄社, 1980)  
BOOKS 大今図 開架 291.09||N12



研究会議(京都)の後で共同研究者の友人と



『21世紀世代への伝言 -「政治」を考えるために-』  
徳本正彦 著  
(大学教育出版, 1997)  
BOOKS 大今図 開架 310.4||T9425



『有ること無いこと』  
浜文敏 著  
(西日本新聞社, 1988)  
BOOKS 大今図 開架 914.6||H9230

## 学問する？

入学前に経験した二年間の東京での浪人生活は、私にとって moratorium の最終期間であったものと観念していました。ところが、2年次生の終わり頃になると、卒業後の進路など、それ以降の身の処し方をめぐって再び悶々とした日々を経験することになりました。

そんな時に、ゼミナールを担当しておられたU助教授から、たまたま数冊の書物を紹介して頂く機会に恵まれました。学問研究をするに相応しいか否かの問題について、単に成績の善し悪しによる適性判断ではなく、学問そのものに向けられる虚心坦懐な精神や情熱の大切さが説かれた『歴史の意味』の中の一節「虚学の精神」、江戸期の旅の有様を描いた宮本常一『野田泉光院』は、当時の私に勇気を与えてくれた書物です。民俗学者宮本常一は名著『忘れられた日本人』を著していますが、その陰に隠れた名著として『家郷の訓』があります。この書物も、私が迎って来たそれまでの歩みを振り返ってみる上で、静かな力を与えてくれた思い出の書の一つです。

折しも自分が父母によって育てられた原風景を思い出そうとしていた私は、U助教授から紹介された柳田國男『定本 柳田國男集 別巻第三』所収の「故郷七十年(改訂版)」に記される「母の思ひ出に」、「夫婦喧嘩の仲裁」、そして「母の長所」などの内容には、郷愁をおぼえること頻りでした。

## 一つのきっかけから

いよいよ3年次生になると、I 教授の担当されていた「法制史演習」を受講することに決めました。博学多識な I 教授の前では、私自身の基礎学力の無さを実感させられることばかりでしたが、努力の積み重ねこそが大切であるということを説いて頂いた御蔭で、次第に「日本法制史」という分野を学ぶ気持ちに傾いていきました。

折しも、I 教授からご紹介頂いた『新編 江戸時代漫筆』には強い関心を抱いておりましたが、研究の本丸である『日本法

制史概説』には、さすがに恐れ入ってしまっていて、果たして将来、自分がこの分野でやっていけるのか、という不安の方がより強くあったことを思い出します。

## 著者に会いたい

学生時代には、とかく片思いなるものはつきものです。後年、当時の講義の光景をふと思い出して、ある図書館で手に取ることできた『21世紀世代への伝言 -「政治」を考えるために-』の第一部の内容は、自分を勇気付けてくれるものでした。戦中・戦後の体験をも交えて、あの静かな語り口で「政治学入門」を講義された先生のお姿を生き生きと蘇らせるものでした。あらためて「ああ、そういうことだったのか」と頷いてばかりでした。

その一方で、偶然にも、『有ること無いこと』という題名の書物を見つけた機会に恵まれました。この本の著者は何と、新入生時代にフランス語を教えて頂いた想い出深き先生ではありませんか。「ひょっとして母国語というのは、「母国語」というよりはむしろ、「母の国語」なのかもしれないぞ、などと思ってしまう。」という一節はとても印象的です。早速、クラスメートに尋ねたところ、誠に残念なことに、早くに旅立たれたということでした。もっともっと多くのお話を伺っておきたかった先生のお一人です。

同様に、片思いでいた先生の御著書『古典曼荼羅一汝自身を知れ』には、後年会うことができましたが、その一節は、浪人時代に受講した「古文精選」という授業の内容を見事に蘇らせるものでした。そして、授業の中で、そもそも古典を学ぶことの意味とは何かを説く書物として紹介された名著『古典学入門』も、当時の自分の姿を思い出させる書物の一つです。

今の時代において図書館は、必要な情報を素早く摂取できる情報館として期待され、そして重宝されているように思われます。しかし、どの時代にあっても、ものを著すものは人であり、これを受け取り、受け継いで行くものも、また人です。様々な書物との出会い、そして、多くの人との巡り合いが、学生時代の精神生活をより豊かにしていくものとなり得ましょう。さあ皆さん、著者のことばに会いに行こうではありませんか。

試験までにマスターしよう!

# 図書館講習会のお知らせ

## 今出川図書館

### 情報探索の技

初級

#### 30分で分かる

本の探し方  
 雑誌記事・論文の探し方  
 新聞記事の探し方  
 百科事典活用法  
 判例の探し方

### 情報探索の技

中級

#### 90分でバッチリ

レポート・卒論テーマ探索の術  
 洋文献へのアプローチ  
 ー英語図書・雑誌を中心にー  
 法令・判例の探し方

#### データベース

First Search (文系・海外論文)  
 Factiva.com (外国新聞)  
 LexisNexis Academic  
 (外国法・外国新聞)

#### プロが教える

ウェブ情報の効果的利用法  
 政策・統計・経営資料の集め方  
 政府資料の集め方  
 キーワード検索がわかる  
 米政府資料の集め方



## ラーネット記念図書館

### 情報探索の技

初級

#### 30分で分かる

本の探し方  
 雑誌記事・論文の探し方  
 新聞記事の探し方  
 百科事典活用法



### 情報探索の技

中級

#### 90分でバッチリ

レポートテーマ探索の術  
 科学技術文献の探し方  
 法令・判例の探し方

#### データベース

JDreamII (理系・海外・国内論文)  
 Factiva.com (外国新聞)  
 SCOPUS (理系・海外論文)

#### プロが教える

ウェブ情報の効果的利用法  
 政策・統計・経営資料の集め方  
 政府資料の集め方  
 キーワード検索がわかる

今出川図書館、ラーネット記念図書館では10月下旬～11月下旬にかけて上記講習会を開催予定です。詳細は決まり次第、図書館ホームページ、携帯電話版DOORS、館内ポスターでお知らせいたします。

- 同志社大学図書館ホームページ <http://www.doshisha.ac.jp/library/>
- 携帯電話版DOORS (Mobile DOORS) <https://mobiledoors.doshisha.ac.jp/mobileopac/>



上のQRコードから携帯電話版DOORSにアクセスできます

# My DOORS

システムがリニューアル!  
新DOORSを使って下さい!



この夏、学術情報システム・学術リポジトリシステムをリニューアルしました。  
オンラインからのサービスも充実！さらに便利になったMy DOORSをご紹介します。

## ログイン

### ●DOORS左バーからのログイン



### ●図書館ホームページからのログイン



卒業生、地域利用者の方もMy DOORSの機能をお使いいただけるようになりました(一部機能のみの提供となります)。

## My DOORS画面

【同志社大学図書館からののお知らせ】  
講習会、ブックフェアの案内など、図書館からののお知らせを表示します。

【図書館からあなたへ】  
図書館から個人的にお伝えする内容を表示します。

【利用状況】  
貸出、予約依頼、購入依頼、複写依頼、借用依頼などの状況を確認できます。  
また、貸出更新、予約・購入依頼の取消が行えます。

【メモ】  
利用者自身が書き込むことができるメモです。

パスワードの登録・変更はこちらから。(利用登録者のみ)

【蔵書検索】  
同志社大学・同志社女子大学所蔵資料の検索ができます。

【同志社大学図書館提供リンク集】  
インターネット上での情報収集にお役立ちの、図書館オススメリンク集です。

【お気に入り】  
利用者自身で作っていくことのできる、ブックマークです。

【個人状況】  
利用者ID、氏名、通知情報、E-mailアドレスが表示されます。  
E-mailアドレスは変更が可能です。

図書館講習会ではリニューアルしたDOORSの使い方を伝授!  
DOORSの使い方、図書館のオンラインサービスなどわからないことがあれば、レファレンスカウンターへ!





図書館の仕事ぶりを  
紹介するゾ!

# 図書館の裏方 ～目録(catalog)整理～

本学は約245万冊の資料を所蔵し(両校地図書館に約88万冊)、毎年6万冊以上を受け入れて  
います(2010年4月現在)。大量にある資料の中から必要なものを探し出せるように、図書館では  
体系的に資料を整理して登録しています。

登録により、オンライン目録\*(OPAC=Online Public Access Catalog)、本学でいう「DOORS」  
での検索が可能となっています。

\*目録とは、英語のcatalogに当てはめて「型録」と表現されることもあります。ある物品をリスト化したもので、  
ここでは図書目録のことを指します。

## ●目録検索のいまむかし

20年程前までは紙のカードで目録を作成して、資料を探す時  
は、カードボックスの中から著者名順やタイトル順で調べていました。

その後、1991年に同志社大学全体の目録検索システムDOORS  
(DOshisha Online Retrieval System)が稼動しました。今、大学  
生の皆さんが生まれた頃のことです。

初期のDOORSでは検索項目がタイトル、著者名、分類に限られて  
いましたが、今ではキーワードなど多様な条件検索ができるよう  
なっています。



▲カード目録

◀カードボックス

カード目録って…  
スゴイ手間がかかって  
たんだね…



▲初期のDOORS画面の様子

## ●目録整理の過程

図書館の資料は次のような流れで処理されています。

### 1選書 → 2発注 → 3検収

収集方針に従って選んだ資料を発注し、資料が届いたら  
発注したものに間違いがないかを確認してから受入作  
業へ回します。

### 4受入

蔵書印を押印し、登録番号  
を付与してバーコードラベ  
ルを貼ります。



蔵書印



バーコードラベル

### 5目録整理・分類

資料に関する詳細な書誌情報(タイトル、著者名、出版者・出版年、ページ  
数、シリーズ名、件名…etc.)を目録データベースに入力します。また、  
所蔵情報(資料の配置場所等)のデータも入力  
します。

大学図書館には、教育研究活動を支援するとい  
う使命があります。学術的なニーズにこたえら  
れるように、目録にはより詳しく正確な情報を記  
録しなければなりません。例えば、同じタイトル  
でも、版が違う場合や出版者が違う場合には、  
その違いを識別できるように目録データを作成  
します。



### 6装備～配架

目録データを作  
成して分類番号を  
付いたら、請求記  
号のラベルなども  
装備します。その  
後、配架してい  
きます。



本学では毎週平均1,400冊程の資料を受け入れ  
ますが、こうした整理作業後に、書架に並べられて皆  
さんが利用できるのです。

図書館を大いに利用してたくさんの資料を活用し  
てください。

図書館は、いろんな  
人たちの努力によって  
支えられているんだね!



# 図書館は宝の山

貴重書デジタル・アーカイブ「ケーリ文庫」・「その他(洋書)」  
Sketches of Japanese manners and customs

ザクザク



今出川図書館の貴重室にある資料を、図書館HPの学術リポジトリ「貴重書デジタル・アーカイブ」で見ることができのを知っていますか?

この中で、ここ数年、メディア関係から注目され、テレビでの紹介や印刷物への掲載も多くなっている「ケーリ文庫」と「その他(洋書)」に蒐集されている絵画を紹介いたします。

この絵画については、いつごろ、誰によって描かれたかという記録はありませんが、1864年から1865年にかけて日本に滞在したイギリス海兵隊所属の大尉(中尉との記録もある)J.M.W. Silver氏が、日本の画家(絵師名は不明)に描かせたものだとしています。

Silver氏はそれをイギリスに持ち帰り、日本の風俗や習慣を紹介した著書の挿絵として使用しました。たった1年間の日本滞在でしたが、彼が目当たりにした日本の風俗や習慣は、エキゾチックで衝撃的なものだったのでしょう。同じ場面を描いたものが複数存在していることから、日本の風俗・習慣を相当数描かせていたと思われます。

中でも端午の節句を描いた絵画は有名ですが、他にも江戸時代の子供たちの遊びや、祭礼、冠婚葬祭、罪人の処刑場面等が丁寧なタッチ、鮮やかな色彩で生き生きと描かれており、臨場感にあふれたその絵画は、私たちを江戸時代にタイムスリップさせてくれます。

本学図書館がこの貴重資料をデジタル・アーカイブで公開したことについて、学外の方から「貴重な資料を公開したこと大いに感服させられたと同時に、絵の素晴らしさに感嘆した!」との声が届いています。

この絵画を見ると、江戸時代にあった風習や習慣が、今も引き継がれていることがわかったり、またその風習や習慣の意味を改めて知ることもあります。

さらに、これらの絵画を芸術作品として鑑賞するなど、いろいろな見方ができるこの貴重資料を皆さんも是非ご覧ください。

## ケーリ文庫

タイトル: Sketches of Japanese manners and customs



端午の節句

◎ケーリ文庫とは ………

1974(昭和49)年3月11日、本学元教授オーティス・ケーリ氏より寄贈されたもの。氏の祖父オーティス・ケーリ博士、父フランク・ケーリ博士両氏により収集され、主として外国人の日本研究とキリスト教伝道史に関する欧文文献で、多くの貴重書を含んでいる。



祇園祭



相撲

## その他(洋書)

タイトル: Drawings for "sketches of Japanese manners and customs" / J.M.W. Silver



## 学術リポジトリ「貴重書デジタル・アーカイブ」

<http://elib.doshisha.ac.jp/japanese/digital/index.html>

図書館ホームページ ▶▶ 特別資料/学術リポジトリ ▶▶ 貴重書デジタル・アーカイブ ▶▶

ケーリ文庫

その他(洋書)

今回は、学術リポジトリ「貴重書デジタル・アーカイブ」で公開している資料のほんの一部を紹介しましたが、Web上で見ることが出来る資料はたくさんあります。

図書館HPをクリックすると、今まで見たことのない資料がザクザクと目の前に出てきますよ。図書館は、Web上でもまさに宝の山です。

貴重書デジタル・アーカイブは、様々なメディアに、画像を貸出しています。

「大江戸タイムスリップ・ウォーキング」  
酒井茂之 著  
明治書院発行

## 向学心旺盛な

法学部聴講生 **笹田 博**さん

早くも第3号の発刊となった書籍館。今回は本学OBであり、現在法学部聴講生の笹田博さんに登場していただきました。ご自身の目標に向かって、勉強中の笹田さん。言うまでもなく図書館のヘビーユーザーです。本学図書館のみならず、他大学図書館にも通われています。そのような向学心旺盛な氏の、図書館に対する熱い思いをお話ししていただきました。



— いつも図書館でお見かけしますが、どのような勉強・研究をされているのでしょうか。またどのような利用をされているのでしょうか。

私は経済学部の卒業生ですが、今は法学と歴史を勉強しています。

法学では法哲学、法社会学などの基礎法学や法律科目の基本を学んでいます。歴史については近世史を研究しています。

平日は午前中から午後にかけて若い学生と学ぶ授業以外は図書館を利用しています。週末は一日中図書館で歴史の勉強を楽しんでいます。

— 向学心旺盛な笹田さんにとって図書館とはどのような存在ですか。

私にとって図書館は本や人との出会いの場です。

本屋さんで見つけた新刊本や法律雑誌の特集を図書館で借りたり、コピーができて助かっています。こんな本が読みたかったと思う本を、偶然書棚で見つけた時は喜びを感じます。歴史の研究では近年図書館の貴重本を介して、三百年前の人との対話から発見があり、今、その発表の準備をしています。

同志社には世界中から留学生がきています。私はスペイン、ドイツ、アメリカ、モンゴル、中国、韓国、ネパールの留学生とこの図書館で友達になりました。彼らとの交流を通して、私は未来に希望がもてるようになりました。

私にとって図書館は、本を介して過去の人を尋ね、世界の学生と出会い、未来を思いつつ、今を生きる力を得る場となっています。

— どのような学生時代を過ごされたのでしょうか。

学部では経済史のゼミに所属し「銀行簿記精法」を研究テーマとしました。これは第一国立銀行員のテキストで、明治政府の大蔵省が明治6年12月に出版した最初の複式簿記の本です。これに関係

して、同志社大学図書館所蔵の江戸時代の辞典などを特別に見せていただきました。

さらに図書館の紹介を得て「銀行簿記精法」の原本を求めて京都大学や神戸商科大学の図書館まで通い、本を介して過去の人と出会う大切さを体験しました。

一方で、ミクロ理論やマクロ理論を学び、また単位

に関係なく文学部で考古学を、商学部で会計学を聴講して、学際的学習を心がけました。

— 本学図書館の良いところをお聞かせください。

本学図書館は天井が高く、明るい自然光に満ちているのが良いところです。週末に歴史の資料を机いっぱい広げて見ている時が、至福のひとつです。これも多くの資料を有する同志社大学図書館ならではの、感謝しています。

時に静かな図書館中にも、レファレンスカウンターで相談する声や足早に授業へ向かう学生たちの足音が響きます。その折に、「ああ、図書館は生きているな。」と実感します。

— 昨今の同志社大学生をご覧になられて感じることは何でしょう。

私が学生として共に勉強していて、同志社大学法学部生はよく勉強しているなと感じます。その背景として全体的には経済不況による就職難があるのかもしれませんが。

そのため公務員試験や法科大学院という具体的な目標ができた事が影響しているのではないのでしょうか。

でも、一方でもう少し人間的幅があればと思うことがあります。言い換えれば「遊び心」でしょうか。将来、より向上するために、豊かな学生生活を送ってほしいと願っています。

— これからの図書館に向けて要望などお聞かせ下さい。

図書館は地域に開かれた場であってほしいと希望しています。在学生ばかりでなく、卒業生や他大生、さらに地域の人々など誰でもルールに従い自由に利用できるコミュニティの場であってほしいと願っています。

それは、いろんな本を読み、多様な人々とも交流してはじめて知の創造も可能になると考えるからです。

— ありがとうございました。

## インタビューこぼれ話

いつも白カッターシャツに黒ズボンのシンプルな服装の笹田さん。その理由をお尋ねしたところ、「絶えず自分自身が新鮮な気持ちを持っていたいから。」だとか。インタビューも終始にこやかに、また質問に対しても丁寧に答えていただきました。これからもご自身の目標に向かって邁進されることと思います。より一層、今出川図書館をご利用下さい。

2010年8月10日インタビュー・撮影



今出川図書館

徳富蘇峰文庫より

「ウィリアム・モリスとケルムスコットプレス」展  
～図書館所蔵資料展示シリーズvol.1～

【時期】 2010年10月12日～12月12日

【場所】 今出川図書館B1階展示コーナー

今出川図書館企画展示、「図書館所蔵資料展示シリーズ」の第一弾として「ウィリアム・モリスとケルムスコットプレス」展を開催しています。

ケルムスコットプレスとは、19世紀末イギリスの装飾芸術家ウィリアム・モリスによる、美しい活字や装飾デザインから紙作り(手漉紙)に至るまで、図書の理想を追求した書物53点66冊を言います。活字版印刷術の完成以来、世界で最も美しいと絶賛されています。その中で、徳富蘇峰から寄贈された21冊を展示しました。また関連する所蔵資料も展示しています。

ウィリアム・モリスの言葉

「もし、今、もっとも重要で切望されている芸術の創作は何かと問われれば、私は美しい家と答えるでしょう。その次に重要で求められているものはと問われれば、美しい書物だと答えます。自分を認めることができ、人並みの安らぎを得て、美しい家と美しい書物を楽しむことこそ、いかなる人間社会も今や究極の目標とすべきところだと思います。」  
(「中世の彩飾写本考」1982年頃)

本図書館には、他にも利用者の皆様にご覧いただきたい資料をたくさん所蔵しています。

それらの資料を、企画展示を通して随時紹介しますので、ご期待ください。



Imadegawa's collection

「近年受賞作品の紹介」展 ～小説を読んでみませんか～

【時期】 2010年10月4日～12月15日(予定)

【場所】 今出川図書館1階 メインカウンター横

早くも3回目を迎えた学生用企画展示「Imadegawa's collection」、今回は「近年受賞作品の紹介」展です。芥川賞・直木賞・大宅壮一ノンフィクション賞・司馬遼太郎賞・山本周五郎賞・三島由紀夫賞・中原中也賞から主として1990年以降に出版された作品を対象としました。

普段本を読まない人、図書館をあまり利用しない人でも気軽に手にとってもらえるような展示構成になっています。展示資料は、それぞれ受賞時に話題になったものばかりです。気になっていた作者の本や、いつか読みたいと思っていた本などがあるはずですよ。

本学図書館では選書基準に照らし合わせ、学術書、専門書、研究書等を所蔵しています。ただ、学生の皆さんに、読みやすい本や手に取ってみたいくなるような図書を紹介することにより一層図書館に親しんでもらい、活用していただくことを目的とするのが学生用企画展示です。

読書には最適な季節に満を持しての開催です。実際に本を手に取り、活字を眼で追い、感動したページを再度読み返すも良し、あるいはページを繰る手を休めて思索に耽るのも良しです。読書の楽しみは無限ですが、本に触れなくては始まりません。皆さんの利用を待っています。

※展示資料は通常通り貸出可能です。(逐次刊行物、視聴覚資料、参考室資料をのぞく)



ラーネッド記念図書館

目的の大なる人物を  
～同志社創設期の学生たち～

【時期】 2010年10月30日～2011年2月28日

【場所】 ラーネッド記念図書館2階 展示コーナー

「自分を修養して、世間の為めに何うしたらよいかと云う事を考へさへして居たらよい」

これは、1886(明治19)年に同志社に入学した深井英五(のち第13代日銀総裁)が、新島襄からかけられた言葉の一部です。深井は同志社での学生生活は、この言葉に尽きると回想しています。学生生活が、目の前の小さな目標にとられずに、自分という人間を磨くための修養の時間であったことがうかがえます。

2010年、同志社が創立135周年を迎えるこの年に、創設期の学生たちを取り上げ、彼らの「志」を、その環境・学問・生活などから探ります。そこから当時の同志社が持つ雰囲気や学生たちが考えていたことをうかがい知るきっかけとなれば幸いです。



協力：同志社社史資料センター

Learned's Choice

Fall'n Art ～五感+～

【時期】 2010年9月24日～2010年12月27日

【場所】 ラーネッド記念図書館2階  
メインカウンター前スペース

ラーネッド記念図書館では、毎回テーマを設け、スタッフが本を選びすぐてご紹介する、「Learned's Choice」を開催しています。

第6回目のテーマは「Fall'n Art ～五感+～」。心も晴れ渡るこの季節。あなたのきもちに寄り添うアートに出会いませんか?

心の闇が暴かれるような怖い絵、また会いたいあの人を思い出す切ない香り、免疫力を高める音楽など…「アートのいろいろ」に触れていただく本をご紹介します。取り揃えた資料も、通常通り貸出できます。(雑誌、DVD、CDを除く)



◀音楽、詩、時間を描いた画家、パウル・クレーの「セネキオ Senecio」(野菊)。人間の顔を花(セネキオ)に見立てています。こどもの顔?老人の顔?あなたはどこらに見えますか?



Learned's Choice ノート  
あなたと一緒にLearned's Choiceをつくろう!  
感想、ご希望、新たな企画案など、自由にご記入ください。

ガゼット・デ・ボザール誌  
Gazette des beaux-arts

洗練された感性による  
世界最古の美術月刊誌

文学部准教授  
清瀬 みさを 先生



図4 ヴァザーリ『美術家列伝』より レオナルド伝扉絵

本学が所蔵する最も貴重な雑誌のひとつに、西洋美術を扱う世界最古の月刊誌・フランスのGazette des beaux-arts (ガゼット・デ・ボザール、邦訳すると『美術雑誌』です)が挙げられます。ガゼット誌は1859年1月にパリで創刊され2002年12月の廃刊まで、激動する時代の波にさらされながら143年の長きにわたって、美術史の専門的研究者のみならず、世界中の美術愛好家をはじめとする幅広い読者層を誇ってきたことで知られます。本学では、文学部の美学芸術学科が1977年にこの雑誌の定期講読を開始し、最終号までを所蔵しています。その間1995年に図書館が1929年から1976年までのバックナンバーを古書として、また今年4月には復刻版まじりではありますが、創刊号から1928年までを購入し、ついに143年分のすべてを学内に揃えることができました。

ガゼット誌の魅力は、一流の文化人、美術批評家、研究者による洗練された美術評論、専門的論文、展覧会評、書評、ヨーロッパ各地の美術情報などを満載した総合的な誌面作りにあったといえます。目次を眺めているだけで時代の関心、研究の動向が垣間見えます。

ガゼット誌の初代編集長・シャルル・ブラン(Charles Blanc, 1813-1882) (図1)は、フランス人の歴史家・美術批評家そして版画家であり、1908年までは雑誌名に「美術と骨



図1 シャルル・ブランの肖像



図2 ガゼット誌創刊号扉



図3 パルテノン神殿フリーズ「騎馬の行列」

董のヨーロッパ通信*Courrier Européen de L'ART et de la CURIOSITÉ*という副題が付されていました。ブランが執筆した創刊号の序文には、刊行の背景として美術に対する公衆の関心が高まり、ジャーナリズムが美術批評の質を鍛えたことで、ようやく発刊の機が熟した喜びが満ち溢れています。雑誌の性格としては、厳密であっても細部に拘泥する研究誌の無味乾燥さを避け、こと「芸術」を扱うのだからフランスならではの明晰さ、的確さ、繊細な観察、洗練された感性による「批評」の場をもって旨とすることが明言されています。そして歴史家にして版画家でもあったブランらしく、具体的に扱う対象と指針は雑誌の扉(図2)デザインに視覚的に示されています。

扉頁の枠組み装飾の裾には、この雑誌の「礎石」としてフェイディアス(Pheidias, BC. 460-430活躍)によるパルテノン神殿フリーズ彫刻から騎馬の行列(図3)が選ばれています。おりしも大英博物館が増設した専用のギャラリーで公開したばかりの、パルテノン彫刻群の一部です。もうひとつの象徴として、レオナルド(Leonardo da Vinci, 1452-1519)の肖像メダイオンが天の部分に掲げられています。図の出典は、1568年に「美術史の父」と称せられるヴァザーリ(Giorgio Vasari, 1511-74)が上梓した『美術家列伝』*Le vite de' più eccellenti pittori, scultori e architettori*…第二版中のレオナルド伝扉に付された肖像版画

(図4)でした。枠組み下部両端には、道具類とともに絵画・彫刻から壺、金細工などの工芸品、骨董品が置かれています。プランによると、フェイディアスとレオナルド、つまりギリシア古典期とイタリアルネサンスをふたつの「灯火」にしつつ、それらの道具や作品に象徴される「素描の術 des arts du dessin(ヴァザーリの定義した美術という概念です)」の全世界を探検すること、それがガゼット誌創刊の抱負でした。

出版革命の時代、美術批評の全盛期、そして「美術史」という学問の揺籃期に創刊されたこの雑誌は、美術と美術を取り巻く社会状況が激変した時代の申し子にほかなりません。ヨーロッパの出版文化に関して言えば、イギリスの産業革命とフランス革命を経た市民社会の成立が、ジャーナリズムの発展を招きました。製紙・印刷・版画技術の革新、教育普及による大衆の識字率向上、国際関係の広がりに対応する速やかな情報伝達の必要性が、18世紀後半からの新聞、そして分野別に専門特化した新聞や機関誌、雑誌の刊行を促進しました。

さて美術と社会の関係ですが、この時代までは教会、宮廷、富裕層が宗教的目的、権力や経済力の誇示、美的趣味の満足のために、主導権を握り美術家に制作させるのが一般的でした。従って、一般大衆と美術作品との接触は極めて限定的でした。ところが革命による社会構造の変化にともない、1851年のロンドンに始まる万国博覧会での美術・工芸品の展示が、美術を不特定多数の大衆に開く場を提供するようになりました。さらに、公私さまざまな展覧会の開催が相次ぎ、ルーヴル美術館(1793年)をはじめとする公的な美術館がヨーロッパ各国に開館します。そこで、古今東西の美術作品と購買者や観賞者とを仲立ちする画商や批評家がかつてのパトロンとしての注文者にとって代わったわけです。彼らは、作品を受容する側には作品の判断基準や意味内容について、現役の作り手には、美術に関する新たな情報も伝えつつ何が評価され、求められるのかを教えました。

そのような展覧会評の先導者であり美術批評という文学ジャンル成立のきっかけとなったのが、フランスの思想家・ディドロ(Denis Didrot, 1713-84)の『サロン評』Les Salonsです。これは、1759年から81年までの王立アカデミーの官展・サロンについて執筆したものです。その後、文学者、画商、美術家たちがこぞって美術について執筆し、書物や雑誌を刊行するようになり、ジャポニズムやロマン主義など新たな芸術運動を牽引しました。ガゼット誌の初代編集長・ブランも、そのような目利きである美術批評家のひとりでした。

美術が不特定多数の大衆との距離を縮める一方で、美術の歴史的研究を専門的に行う美術史という学問もこの時代に生まれ育って行きます。フランス国内外の研究者による作品の帰属、様式、忘れられた中世キリスト教の図像解釈などの問題を精査した論文が、次々とガゼット誌に発表されました。20世紀に入ると、大学、美術研究所、美術館・博物館、学会が相次いで専門性の高い研究誌を刊行するようになります。そして美術を俎上にあげる場合、製紙・印刷技術の向上に加え、正確な視覚

資料の提示が必須要件となりますが、銅版画に代わり写真図版が登場し、時代とともに複製技術の精度が向上し続けたことが今日の美術史学の隆盛につながったことは特筆しておかねばならないでしょう。

2002年12月、ガゼット誌突然の廃刊は衝撃的なニュースとなりました。編集長ダニエル・ウィルデンシュタイン(Daniel Wildenstein, 1917-2001)が亡くなった翌年に遺族が廃刊を決めたそうです。そのような決定が可能であったのは、この雑誌が1928年、前任の編集長である父・ジョルジュ(George Wildenstein, 1892-1963)によって買収されていたからでしょう。父子は美術商、美術史家として世界に名を馳せ、画廊はいうまでもなく、自前の美術研究財団や美術館を擁するウィルデンシュタイン商会の総帥でした。143年間の歴史と終焉を振り返りつつ、ガゼット誌の果たした役割の計り知れない大きさとともに、この雑誌は誰のものであったのか、という思いにとらわれてなりません。



図2 ガゼット誌創刊号扉  
[Gazette des beaux-arts] (Paris, 1859-2002)

大今図 3階南書庫 P700.5 II G



# 今出川図書館 検定

図書館を利用していますか？大学になくてもならない図書館ですが、使い方をマスターするのは容易ではありません。なぜなら、図書館は時とともに成長し、変化しているからです。ヘビーユーザーのあなたも、試験前の駆け込み利用だけというあなたも、ちょっと図書館探訪に出かけてみませんか？

全問正解目指して  
**Let's try!**



**Q1** 今出川図書館のメインカウンターは何階でしょう？  
〈図書館HPや利用案内のフロアマップもヒントになるかも〉

**Q2** ラーネッド記念図書館は通常21時まで開いています。では、今出川図書館は何時まで開館しているでしょう？  
〈通常の講義期間の平日・土曜の開館時間について答えてね〉

**Q3** 海外ニュースや放送大学の番組も見られ、ビデオやDVDなどの視聴覚資料がある場所の名称は何でしょう？  
〈今出川図書館の地下1階ですね〉

**Q4** 欧州統合関係の専門資料を置いているセンターの名称は何でしょう？  
〈今出川図書館入口に入ってすぐ左にあるよ。このセンターは1976年に日本国内3番目に設置されたんだね〉

**Q5** 同志社大学の初代図書館は現「有終館」です。では、2代目の図書館は現在何と呼ばれている建物でしょう？  
〈正門より東側で、アーモスト館の南にあるよ。「Student Handbook 2010」163頁のキャンパスマップや図書館HP「図書館の歩み」に答えが?!〉

## 全問正解者の中から、抽選で5名様にすてきなプレゼント!

応募BOXは、両校地図書館メインカウンター横にあります。

締切

**2010年12月10日金 17:00**

(解答用紙は返却しませんのでご了承ください)

当選者  
と  
答

**12月17日金 発表**

今出川：今出川図書館前掲示板  
京田辺：ラーネッド記念図書館メインカウンター前

### 本冊子 名前の由来

1885年12月18日の新島襄の日記「出遊記」には、「書籍館」という言葉が記されている。これは同志社の初代図書館(現有終館)の定礎式に臨んだときのものである。

この図書館報の名称「書籍館」(しょじやくかん)は、2009年11月の創刊にあたり、新島がいた124年前の原点に戻って、同志社大学図書館を再考したいという思いから名付けたものである。



### 同志社大学 図書館報 vol.3 書籍館 2010年11月1日発行

編集・発行：同志社大学図書館  
〒602-8580 京都市上京区今出川通烏丸東入  
Tel: 075-251-3960 Email: ji-gakjo@mail.doshisha.ac.jp  
http://www.doshisha.ac.jp/library/